

5.

国際研究ネットワーク

2016 年度

国際研究ネットワーク構築概要

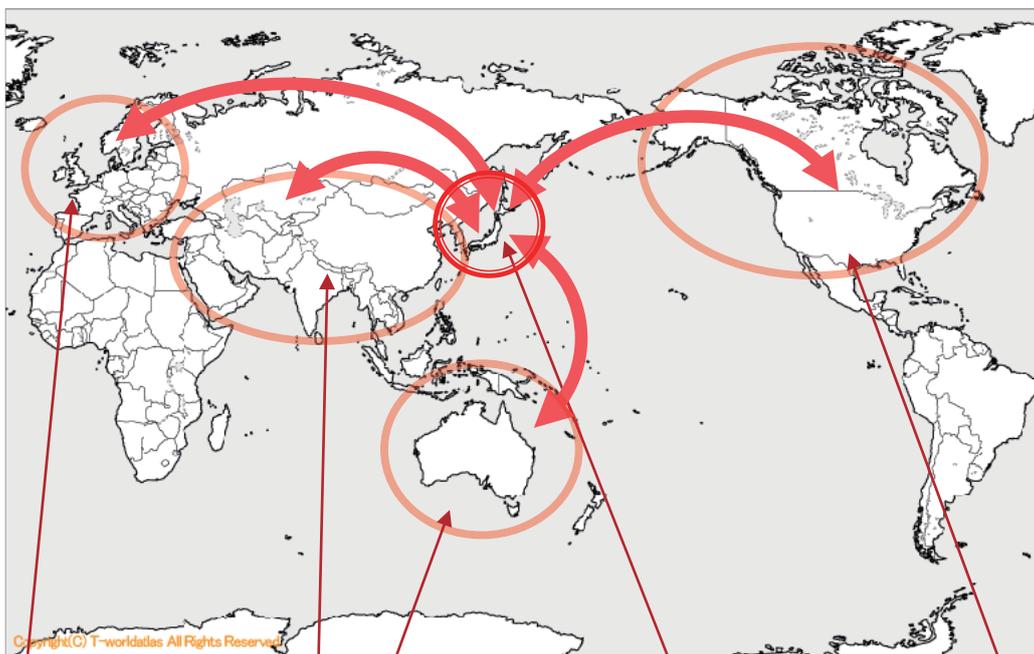
- 1) 国際的な共同研究・研究交流
- 2) 海外研究者フェローシップ受入

▶ 2016 年度国際研究ネットワーク構築概要

5 カ国、11 箇所の研究機関との国際研究・交流ネットワーク

ジェンダー研究所は日本のジェンダー研究のハブとして、国内・海外の研究機関及び研究者らと広くネットワークを構築し、共同研究にも積極的に取り組んでいる。2016 年も、アジア、ヨーロッパ、アメリカの 5 カ国、11 箇所の研究機関及び研究チームと研究交流を行った。とりわけ、11 月には第 1 回東アジア日本研究者協議会に IGS パネルを組んで参加し、唯一のジェンダー研究関連のパネルとなった。また、フェローシップを獲得して来日する、海外の若手研究者も受け入れた。共同研究の成果は、国際シンポジウムや出版物を通じて広く社会に還元していきたい。

ジェンダー研究所を拠点とする国際ジェンダー研究ネットワークイメージ



ヨーロッパ	アジア・オセアニア	日本国内	北米
European Consortium for Political Research アルザス・欧州日本学研究所 ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科 パリ第 2 パンテオン・アサス大学 《招聘研究者》 小野坂優子 (スタヴァンゲル大学・ノルウェー) アートリー・セン (コペンハーゲン大学・デンマーク) 《特別招聘教授》 エリカ・バップフェッリ (マンチェスター大学・英)	韓国ジェンダー政治研究所 ソウル大学日本研究所 ソウル大学国際問題研究所 東アジア日本研究者協議会 国立台湾大学 アジア工科大学院大学(AIT) 環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻 《招聘研究者》 ジョヨッティ・ゴーシュ (ジャワハルラル・ネルー大学・インド) C.P.チャンドラシェーカー (ジャワハルラル・ネルー大学・インド) キャサリン・ミルズ (モナシュ大学・豪)	「フェミニスト経済学」研究会 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会(GDRep) 生殖医療で形成される多様な家族と当事者のウェルビーイングを考える研究会 「冷戦とジェンダー」研究会 ジェンダー関連学協会コンソーシアム 《招聘研究者》 計 19 名(125 頁参照)	日米女性政治学者シンポジウム 《招聘研究者》 エイミー・リンド (シンシナティ大学・米) ルーク・ロバーツ (カリフォルニア大学サンタバーバラ校・米) 堀口典子(テネシー大学・米) マーニー・S・アンダーソン (スミス大学・米) メリッサ・デックマン (ワシントン大学・米) ジュリー・ドーラン (マカレスター大学・米) 《受入フェロー》 ユン ジソ(カンザス大学・米) 《特別招聘教授》 スーザン・ハロウェイ(カリフォルニア大学バークレー校) ラウラ・ネンツィ (テネシー大学・米)

1) 国際的な共同研究・研究交流

【アジア・オセアニア地域】

■IGS 専任教員・特任教員・特任リサーチフェローによる国際的な共同研究・研究交流

東アジア

東アジア日本研究者協議会

2016 年度に発足した東アジア地域の日本研究者の協議会。日本、韓国、中国、台湾の日本研究者が各国で行われている日本研究の成果や情報を共有し、東アジア地域の学術的な国際交流を推進するための学際的な学会。

【担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

東アジア日本研究者協議会第 1 回国際学術会議 (ソウル大学) に、パネルを組んで研究発表を実施。参加者は足立眞理子 (IGS 教授)、申琪榮 (IGS 准教授)、本山央子 (本学大学院博士後期課程ジェンダー学際研究専攻)、大沢真理 (東京大学教授)、金井郁 (埼玉大学准教授)。

韓国

韓国ジェンダー政治研究所

韓国ジェンダー政治研究所は 1999 年に設立された NPO。政治分野におけるジェンダーギャップを解消するために世論喚起、研究、ロビー活動を行っている当該分野で代表的な民間研究所。

【担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

研究委員、当該研究所の研究活動企画、研究会参加。2016 年度から韓国研究財団から助成金を受託し共同研究を実施。研究課題は「議会内政治的代表的代表制の性差についての公式・非公式制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」。ジェンダー研究所の「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究プロジェクト (24 頁参照) の韓国調査を実施。

ソウル大学日本研究所

日本研究の活性化と日韓相互理解の増進を目標として 2004 年に設立。日本関連資料の収集、国際学術会議、学術活動事業、情報ネットワーク構築、次世代日本専門家の養成等の事業を遂行。

【担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【共同研究・研究交流の概要】

学術雑誌『日本批評』海外編集委員。

共同研究プロジェクト『日本の民主主義』共同研究員。

ソウル大学国際問題研究所

ソウル大学政治外交学部に設立され、外交問題や国際政治の研究に取り組む研究所。研究活動の一部として Social Science Korea 「East Asian International Relations Theory」を遂行。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

Social Science Korea 「East Asian International Relations Theory」共同研究員。
東アジアの国際関係理論構築研究、ジェンダー、日本地域担当。

台湾

国立台湾大学

【担当】申琪榮（IGS 准教授）、Huang Chang-ling（国立台湾大学准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究プロジェクト（24 頁参照）の台湾調査。

タイ

アジア工科大学院大学（AIT）環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻

1959 年創立で 60 以上の地域から 1700 人以上の学生が学んでいる理工系を中心とした全寮制の大学。校内公用語は英語で、当該専攻はジェンダー視点から開発の問題を研究している。

【担当】日下部京子（AIT 教授）、足立眞理子（IGS 教授）、申琪榮（IGS 准教授）、
板井広明（IGS 特任講師）

【共同研究・研究交流の概要】

本学ジェンダー社会科学専攻院生の AIT 派遣、AIT 院生の日本でのフィールドワーク受入による交換研修プログラム、「AIT ワークショップ」を実施し（128～133 頁参照）、国際的な視点を持った若手研究者の育成および、アジア各国出身学生との研究交流を進めている。

■2016 年度招聘研究者

ジョヨッティ・ゴース（ジャワハルラール・ネルー大学・インド）

国際シンポジウム「金融化、雇用、ジェンダー不平等」（50～52 頁参照）

C.P.チャンドラシェーカー（ジャワハルラール・ネルー大学・インド）

国際シンポジウム「金融化、雇用、ジェンダー不平等」（50～52 頁参照）

キャサリン・ミルズ（モナシュ大学・豪）

IGS セミナー（生殖領域シリーズ）「出生前検査をめぐる倫理」（83～84 頁参照）

【ヨーロッパ】

■IGS 専任教員・特任教員・特任リサーチフェローによる国際的な共同研究・研究交流

全欧

European Consortium for Political Research

ヨーロッパを中心とする政治学研究機関（大学の学科や研究所など）の研究協議会。年次大会以外にもジェンダーと政治分野に特化した European Conference on Politics and Gender を隔年で開催。

【担当】 申琪榮（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

機関メンバーシップ。本学関係者は ECPR 主催学会等の参加費割引、各種電子リソースへのオンラインアクセスなどの特典がある。

フランス

アルザス・欧州日本学研究所

ヨーロッパにおけるトップクラスの日本学研究所。日欧の多くの大学との研究連携を続けているほか、日本企業の欧州進出支援も行っている。

【担当】 足立眞理子（IGS 教授）、サンドラ・シャール（ストラスブール大学）

【共同研究・研究交流の概要】

国際シンポジウム「モダン再考：戦間期日本の都市空間・身体・ジェンダー」（2017年3月22日～3月25日、於：ストラスブール大学）共催（65頁参照）。同シンポジウムの内容および共同研究成果を、単行本にて刊行予定（フランス語版）。

ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科

フランス・ストラスブール大学外国語・外国文化学部日本学学科は、フランス国内のみならず、EU 全域において、日本学の中心的かつ先端的な教育・研究機関であり、多くの留学生受け入れ実績をもっている。なかでも、人文・思想、歴史、経済史、ジェンダー研究で国際的に著名であり、優れた研究業績を上げている。

【担当】 足立眞理子（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】 サンドラ・シャール氏（講師）訪問（書籍刊行準備）。

パリ第2パンテオン・アサス大学

1970年創立の法律政治経済経営分野学部からなる社会科学系大学。学際的な研究に力を入れている。

【担当】 板井広明（IGS 特任講師）

【共同研究・研究交流の概要】 パリ政治学院のグラントに基づく「ナッジ・プロジェクト」責任者の一人であるアン・ブルノン教授との「ナッジ」に関する共同研究の成果として、*The Tocqueville Review/La revue Tocqueville*, vol.37, no.1, 2016 June に論考を掲載した。

■2016 年度招聘研究者

小野坂優子（スタヴァンゲル大学・ノルウェー）

国際シンポジウム「家族、仕事、ウェルビーイングの国際比較」（53～55 頁参照）

アトリー・セン（コペンハーゲン大学・デンマーク）

国際シンポジウム「女性、宗教、暴力：国際的視点からの再考」（56～58 頁参照）

エリカ・バッフェリ（マンチェスター大学・英）

特別招聘教授（111～113 頁参照）

【北米】

■IGS 専任教員・特任教員・特任リサーチフェローによる国際的な共同研究・研究交流

米国

日米女性政治学者シンポジウム（Japan America Women Political Scientists Symposium）

2000 年からスタートしたアメリカと日本の女性政治学者による研究交流ネットワーク。相互にアメリカと日本でシンポジウムを開催し研究交流を行ってきた。日本では IGS がまとめ役を担っている。

【担当】申琪榮（IGS 准教授）、田中洋美（明治大学准教授）、武田宏子（名古屋大学教授）、岩本美砂子（三重大学教授）、メリッサ・デックマン（ワシントンカレッジ教授）、ジュリー・ドーラン（マカレスター大学教授）、マリアン・パリー（デラウェア大学名誉教授）ほか

【共同研究・研究交流の概要】

女性の政治的表現性及びジェンダー関連政策について、日本及び米国で定期的な研究交流・シンポジウム開催。2016 年度は IGS 企画の国際シンポジウムを開催。

■2016 年度招聘研究者

エイミー・リンド（シンシナティ大学・米）

IGS セミナー「ポスト新自由主義の未来を想像する」（73～74 頁参照）

ルーク・ロバーツ（カリフォルニア大学サンタバーバラ校・米）

IGS セミナー「江戸時代の武家の女性たち」（80～82 頁参照）

堀口典子（テネシー大学・米）

IGS セミナー「ジェンダー・食・帝国」（85～87 頁参照）

マーニー・S・アンダーソン（スミス大学・米）

国際シンポジウム「明治期のジェンダー、宗教、社会改良」（59～61 頁参照）

メリッサ・デックマン（ワシントン大学・米）

国際シンポジウム「なぜアメリカで女性大統領は誕生しなかったのか？」（62～64 頁参照）ほか

ジュリー・ドーラン（マカレスター大学・米）

国際シンポジウム「なぜアメリカで女性大統領は誕生しなかったのか？」（62～64 頁参照）ほか

Yoon Jiso（カンザス大学）

日本学術振興会外国人特別研究員（126 頁参照）

スーザン・D・ハロウェイ（カリフォルニア大学バークレー校・米）

特別招聘教授（108～110 頁参照）

ラウラ・ネンツィ（テネシー大学・米）

特別招聘教授（114～116 頁参照）

【日本国内】

■ 関連研究会・連携研究・ネットワーク機関等

○「フェミニスト経済学」研究会

〈コーディネーター〉足立真理子（IGS 教授）、伊田久美子（大阪府立大学教授）

○政治代表におけるジェンダーと多様性研究会（Gender, Diversity and Representation（GDRep））

『政党行動と政治制度』セミナー・シリーズ」実施

〈コーディネーター〉申琪榮（IGS 准教授）

〈メンバー〉三浦まり（上智大学教授）、Jackie Steele（東京大学准教授）

○生殖医療で形成される多様な家族と当事者のウェルビーイングを考える研究会

IGS セミナー 生殖領域シリーズを含む、セミナー・シリーズ実施

〈メンバー〉久慈直昭（東京医科大学教授）、清水清美（城西国際大学教授）、

仙波由加里（IGS 特任リサーチフェロー）

○「冷戦とジェンダー」研究会

IGS セミナー、IGS 研究会実施

〈コーディネーター〉臺丸谷美幸（IGS 特任リサーチフェロー）

〈メンバー〉申琪榮（IGS 准教授）、宮内貴久（お茶の水女子大学教授）、武田興欣（青山学院大学教授）、幸田直子（近畿大学専任講師）

〈協力〉岡崎まゆみ（帯広畜産大学人間科学研究部門専任講師）、

兼子歩（明治大学政治経済学部専任講師）、山本めゆ（日本学術振興会特別研究員 PD）、

土野瑞穂（本学みがかずば研究員）

○国内の女性学・ジェンダー研究センターとのネットワーク

ジェンダー関連学協会コンソーシアムへの参加 ほか

■2016 年度招聘研究者

伊藤誠（東京大学）

国際シンポジウム「金融化、雇用、ジェンダー不平等」（50～52 頁参照）

久慈直昭（東京医科大学）

IGS セミナー（生殖領域シリーズ）「AID 出生者のドナー情報を得る権利」（69～70 頁参照）

根本宮美子（京都外国語大学）

国際シンポジウム「家族、仕事、ウェルビーイングの国際比較」（53～55 頁参照）

高橋梓（東京外国語大学）

IGS セミナー「訳者と語る『京城のモダンガール』」（77～78 頁参照）ほか

松尾瑞穂（国立民族学博物館）

小川真理子（日本学術振興会特別研究員 PD／大妻女子大学）

国際シンポジウム「女性、宗教、暴力：国際的視点からの再考」（56～58 頁参照）

武藤香織（東京大学）

IGS セミナー（生殖領域シリーズ）「出生前検査をめぐる倫理」（83～84 頁参照）

エリック・シッケタンツ（日本学術振興会外国人特別研究員）

石井紀子（上智大学）

国際シンポジウム「明治期のジェンダー、宗教、社会改良」（59～61 頁参照）

上村協子（東京家政学院大学）

栗田啓子（東京女子大学）

松野尾裕（愛媛大学）

生垣琴絵（沖縄国際大学）

池尾愛子（早稲田大学）

金野美奈子（東京女子大学）

伍賀偕子（元大阪総評オルグ、元関西女の労働問題研究会代表）

IGS セミナー「日本における女性と経済学」（93～94 頁参照）

田中洋美（明治大学）

武田宏子（名古屋大学）

岩本美砂子（三重大学）

国際シンポジウム「なぜアメリカで女性大統領は誕生しなかったのか？」（62～64 頁参照）ほか

2) 海外研究者フェローシップ受入

日本学術振興会外国人特別研究員

Yoon Jiso (カンザス大学準教授)

【受入担当】 申琪榮 (IGS 准教授)

【受入期間】 2015 (平成 27) 年 8 月 10 日～2017 (平成 29) 年 6 月 10 日

【研究テーマ】 日本の地方政治における女性の政治的代表性の研究 (本報告書 27 頁参照)

2016 年度の研究成果

主な研究テーマは、クオータ制度が行なわれている韓国と行われていない日本を比較し、女性の政治参加を拡大するために導入された制度が、女性の政治的的代表性や意識改革にどのような影響を与えるのかを分析することである。

2016 年は、具体的に地方議会に注目し、その中でもっとも女性議員の割合が高いと言われるソウル市議会と東京都議会に焦点を当てた。2000 年代以来の会議録 (本会議・委員会) を検討し、女性の利益に関する政策トピックは何か、誰が (議員性別・政党) このような政策トピックに言及するのかに関するデータを集めた。そのデータ分析を通し、男性議員より女性議員が、女性議員の中でも非保守政党所属の議員らが特に女性の利益を代弁していることが明らかとなった。また、議員らの所属政党によって、言及するテーマや内容が異なった。最後に、東京都議会ではクオータ制が導入されていないにもかかわらず、少数会派の女性議員らが女性やマイノリティの利益を代弁するために活躍していることがわかった。

このデータに基づいて研究論文を書き、2016 年の 6 月 24～27 日に京都 (日本) で開催された Association for Asian Studies in Asia でその発表を行った。再校正した論文は、学術誌『Asian Women』(Research Institute of Asian Women Sookmyung Women's University 刊) に掲載予定である。

このほか、下記 2 件の IGS 研究プロジェクトにも参加しており、研究所研究者らとの共同研究に取り組んでいる。

- ・「東アジアにおけるジェンダーと政治」研究 (本報告書 24 頁参照)
- ・人口政策としての不妊治療支援に関する日韓の比較研究 (本報告書 33 頁参照)

Association for Asian Studies Asia 2016 プログラム
<http://aas-in-asia-doshisha.com/>

7/21	Northwest Asia	Sokusan (SK) 115 1F
2/8 Seminar	10:30am - 12:20pm	8:30am - 10:30am
Women and Political Representation in Japan and Korea		10:30am - 12:20pm
		1:00pm - 3:00pm
		3:00pm - 4:30pm
		5:00pm - 6:30pm
		SUN JUNE 26
		8:30am - 10:30am
		10:30am - 12:20pm
		1:00pm - 3:00pm
		3:00pm - 4:30pm
		5:00pm - 6:30pm